

いつでも どこでも 誰でも
携帯・スマホで
量子波
〔遠隔／近隔〕
ヒーリング

こんな簡単な方法で「痛み」「病気」が
みるみる消えるなんて!?

佐藤清&テラヘルツ研究取材班

著者考案のチップは10の51乗の周波数帯のヒーリング波を発生し、
驚異の治癒例を続々と生み出している?! 本書そのものからもクオ
ンタム(量子)ヒーリング波が出るように工夫されていますので、ぜひ
この本を手にとって感じてみてください!



ヒカルランド

プロローグ 自分の病気は自分で治す時代がやって来た

有効率はほぼ100%近い(!?) 携帯・スマホ遠隔ヒーリングを完成

“スマホおよび携帯電話で病を癒せる”。「そんなアホな！」と誰もが思うに違いないありません。

しかし、これは眉唾まゆつばではないのです。

被験者から私の携帯に電話をしてもらい、私が近年開発した、量子波エネルギー発生装置『クオンタム22』で携帯を挟む。私からの送信電波を受信しているスマホあるいは携帯を被験者が肩や膝、腰などの患部に10分前後あてれば良いのです。

このクオンタムヒーリングの素晴らしさは、スマホおよび携帯で人工衛星が滞在する宇宙空間に電波を飛ばし、患者さんに送信しますので、どんなに遠方でもヒーリングが可能なことです。

これまで遠隔ヒーリングした人は、数百人は超え、ごく稀まれに効果を体感できないという人がおりますが、ほとんどの方が肩や肘、腰などの痛みの軽減、肩の上げ下げ、前屈などが楽にできるようになります。さらに視力の場合も、5分から10分程度のヒーリングで0・3から1・0前後向上するケースがあります。

世界で珍しい網膜色素変性症による失明が改善した！

効果の持続時間は個人それぞれですが、半日から3日、1週間ほど、たまに1回のヒーリングで症状が治まったという人もおります。

その改善症例や体験談を本文中にまとめています。

中には、脳出血の後遺症が1回の遠隔ヒーリングで改善した症例や、網膜色素変性症で片目が失明状態だったのが改善、車を運転できる状態まで回復した症例も出ています。

これは画期的なことです。私の知るところでは、この網膜色素変性症が改善した例は世界では皆無でしょう。進行が止まったことで世界にニュースが発信されたことがあります。失明から健全状態に改善した例はありません。

これまで博多から富山、富山から横浜、愛媛など、500キロメートルも離れた遠隔地の患者さんの症状をスマホおよび携帯電話一本で改善した多くの症例が出てきています。

「いつでも、どこでも、誰でも」実現できる

博多のホテルで朝方、ぼーっとしているとき、ふと、私と懇意にしてくれた故知花敏彦先生の言い遺された言葉が頭をよぎったのです。

「地上のエネルギーよりも宇宙のエネルギーは何十倍も強い。このエネルギーを使えば、この地球上の病の悩みや、痛みを解消することができ」

この言葉をヒントにスマホおよび携帯で宇宙に電波を飛ばし、それを患者さんに受けてもらうという、誰も考えない超ウルトラCを思いついたわけです。



電波を宇宙に飛ばすことで治療力が数十倍高まる!?

これで、「いつでも、どこでも、誰でも」が実現できるのです。

私が考案したチップは、10の51乗という、現代科学では計測できない量子波の周波数帯に属します。

これは、フーチセンサーという、潜在意識を応用した測定法で計測してもらったのです。

これは誰でも計測できるというものではありません。熟練し、脳が変性意識状態になって初めて計測できるのです。

現代医学、現代科学の世界では、超微小知性体『ソマチッド』と同じように認められるものではないでしょう。

“意識が物質化を引き起こす”と考える物理学者が増えてきた

とはいえ、量子力学の研究が進み、“意識が物質化を引き起こす”と考える物

理学者が世界的に増えてきました。

また、「生命は死んだら何もかも無になる」という定説が崩れ、**肉体が減んでも魂がこの世から離脱し、あの世の世界に行けるとすることが科学的に論証されてきました。**米国の世界的な脳外科医エベン・アレグザンダー博士がご自分の実体験を公表したのです。

これは今に始まったことではありません。臨死体験者の報告は枚挙に^{いとま}違がありません。これは完全に人類5000年にもわたる永遠の課題が解決されたこととなります。中でも前述した**“意識が物質化を引き起こす”**という考えは、私が考案したクオンタム22のメカニズムを裏付けるものです。

“自分の病気は自分で治せる”がクオンタム22と共振する

あなたが強く、「自分の病は自分で治せる」と確信を持ったとき、クオンタム

22から放射される周波数と共振し、宇宙空間で増幅され、あなたにそのエネルギーが戻ってくるのです。

さあ、本書をお読みになって、自分の意識が病を作る。そして自分の意識で病を治せる。ということを手得されてください。

もう医療費増大に歯止めをかけないとこの国は滅びてしまいます。

「自分の病気は自分で治せる」という意識の構築こそが、今求められているのです。

2018年7月

佐藤清

目次

プロローグ 自分の病気は自分で治す時代がやって来た

有効率はほぼ100%近い(!?) 携帯・スマホ遠隔ヒーリングを完成 1

世界で珍しい網膜色素変性症による失明が改善した! 2

“いつでも、どこでも、誰でも” 実現できる 4

“意識が物質化を引き起こす” と考える物理学者が増えてきた 5

“自分の病気は自分で治せる” がクオンタム22と共振する 6

第1部 遠隔療法が世界を救う

第1章 有効率はほぼ100%の携帯電話ヒーリングが誕生

足の腫瘍が1回の施術で消えた！ 16

21世紀では起こり得ない医療が見えてきた！ 20

骨折と診断された翌日、遠隔ヒーリングで激痛がゼロに！ 22

「脳出血で閉じた瞼が2、3分後開いた」 24

大動脈解離の瘢痕が残らず、改善できた 27

元気を取り戻した兄は、老人病院で薬漬け医療にあつて88歳で他界した 29

“地上より宇宙のエネルギーの方が数10倍強い”（故知花敏彦）が開発のヒントになった！ 32

携帯ヒーリングの有効率は私の元ではほぼ100%を達成した 37

第2章 どうして量子波が病を改善するのか？

『クオインタム22』は認知症の改善も可能 42

“でも、だが、しかし”の発想では、治癒率が下がる 47

量子力学で「人間の意識が物質化を起こす」ことが証明された 49

超能力者張宝勝は40キロ離れた北京空港を5分で往復した!! 53

【自分のことだけ考えると紅蓮地獄に落とされる】 58

“自分で治したい” “自分の病は自分で治す” 想いが治療効果を引き出す 62

あの世が実在することを全米脳神経科学の権威アレグザンダー博士が立証した 66

素粒子同士はどんなに遠方でも情報交換しあう『量子もつれ』現象が起きている！ 70

第2部 遠隔療法のメカニズムに迫る

第3章 意識が細胞に共振、病を癒す

空海が説いた『理趣』は人類を救済する 76

特有の周波数を使ったライフ博士は、末期ガンの有効率100%を達成した 80

ソマチッドの蠢動で自然治癒力が喚起される！ 83

ソマチッドは、DNAの前駆物質であることを実証 91

前向きな感情や考え方は、ソマチッドを活性、自然治癒力が向上する 94

第4章 クオインタム22の改善症例

網膜色素変性症で見えない視力が戻った 99

1 回20分の施術で黄斑変性症と不眠症、膝の関節症の痛みも緩和した 103

クオインタム22を側頭部にあて、4日後の試験で100点取れた！ 105

回復まで1か月半かかる骨折が2週間ほどで改善した 106

「劇症肝炎の末期の痛みが消失、家族から感謝された」 108

野球少年の橈骨上顆炎と尺骨上顆炎が短期間に改善 112

「ガンが改善できたのは、20症例を超える」 113

第3部 クオインタム22の実践

第5章 佐藤式遠隔携帯・スマホ療法と佐藤式携帯・スマホ近隔セラピー

日本人に多い腰痛と脊柱管狭窄症も完治できる 120

膝関節障害の痛みが取れる 122

バネ指、弾発指の改善 123

糖尿病性血行障害は「腫中」「神道」のツボ療法、食養生が大切 124

四十肩、五十肩もたちまち改善できる 125

ムチウチ症の痛みをたちまち消失、稼働領域が広がる

「統合失調症の青年には、5人の憑依霊がついていた」 128

他の症状の手当ての仕方 132

第6章 天然メシマコブのチカラ

- 韓国ではメシマコブが抗ガン剤に認可された 135
メシマコブは、ガンと糖尿病では最強の天然素材 138
「天然メシマコブの煎し液で糖尿病と、透析寸前の腎臓病がたちまち改善」 140
「2日後検査したら正常値に改善、透析を回避できた」 142

エピローグ 自分の病は自分で治す

- 素粒子はどんな遠方でも瞬時に情報伝達している！ 145
このままでは日本は自滅、3流、4流国に転落する！ 146
認知症の克服が課題 148
QRコードをあてれば軽度な症状は軽減できる 150
あなたの意識が病を癒す根源だ！ 151

第1部

遠隔療法が世界を救う

第1章

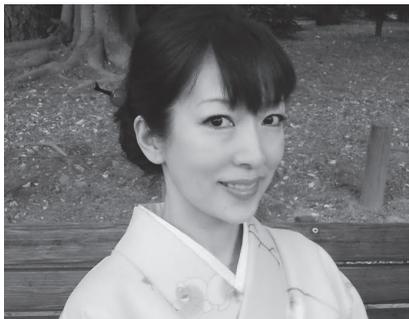
有効率はほぼ100%の携帯電話ヒーリングが誕生

足の腫瘍が1回の施術で消えた！

こんなことが起こり得るだろうか。

今年3月、滝恭子さん（渋谷在住、48歳）が足先に腫瘍があるとのこと、治療に來られたのです。

詳しくお話を聞いたら、5、6年前から足の爪先に痛みがあるとのこと、



足の指の腫瘍が消失、腰痛も改善（滝恭子さん）

「これまでで大病院や整形外科などで、40回以上、痛み止め剤やブロック注射などの治療を受けたのですが、一向に良くならない」というのです。

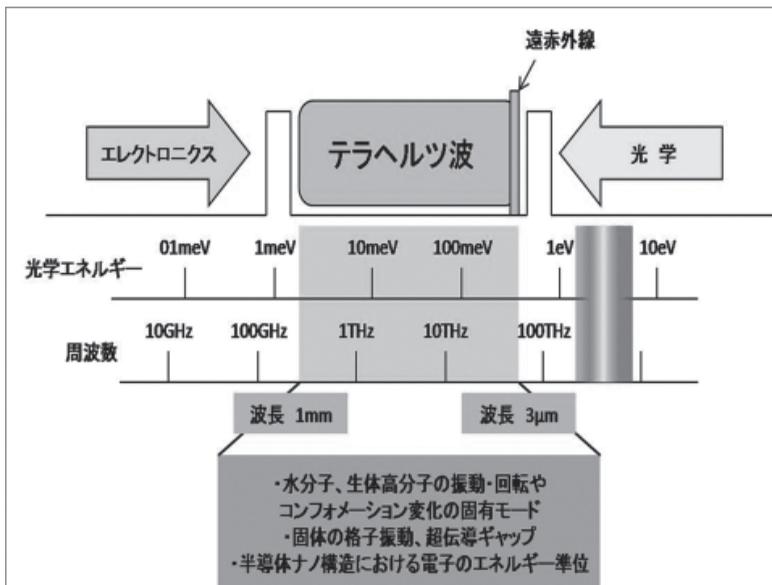
2017年の4月、レントゲンとMRIで診断したところ、足の指に腫瘍が見つかったので、手術を勧められているというのです。

そこで、私の携帯に電話してもらい、『クオインタム22』に私の携帯を挟み、平さんの携帯を爪先の痛いところに5分から10分くらいあてたのです。

このクオインタム22は、テラヘルツ量子波という、毎秒1兆回以上振動する特殊な周波数を放射する装置のことです。波長でいえば、 $3\mu\text{m}$ から $10000\mu\text{m}$ の遠赤外線サブミリ波領域のことです。手のひらサイズの装置で、内部には私が開発した特殊なチップが内蔵されているのです。

電磁波の種類

因数	接頭語単位	単位		周波数	周波数の種類と利用状況
10^8	100M(メガ)	1億			極超短波 UHF地上波テレビ
10^9	1G(ギガ)	10億			マイクロ波 電子レンジ
10^{10}	10G(ギガ)	100億			ミリ波 レーダー
10^{11}	100G(ギガ)	1000億	+		テラヘルツ波(300GHz~3THz) 遠赤外線
10^{12}	1T(テラ)	1兆			
10^{13}	10T(テラ)	10兆		Hz(ヘルツ)	中赤外線
10^{14}	100T(テラ)	100兆			可視光線
10^{15}	1P(ペタ)	1000兆			紫外線
10^{16}	10P(ペタ)	1京			エックス線 レントゲン
10^{17}	100P(ペタ)	10京			



もちろんのこと、この装置はコードレスです。私は、この装置に21世紀では開発が不可能と予測し、『クオンタム22』と命名したのです。

1か月後、大学病院に前回、撮影したMRI画像を持ち込み、再度検査したところ、足先の腫瘍が消え、医師も驚いたというのです。

滝さんの足の痛みも緩和し、スニーカーで歩けるまで回復してきたというのです。さらに7月になって再度研究会に参加、このことをお知らせに来てくれたのです。折角ですので、爪先と腰痛にも携帯をあて、施術してあげたわけです。

滝さんによれば、「経過は徐々に腰痛も少しずつ緩和している」ということでした。

私は、1回の施術でも腫瘍の消失が可能と思っていましたが、実際、思った通りのことが起き、自分でも驚いています。

21世紀では起こり得ない医療が見えてきた！

研究会に、1か月前に骨折と捻挫で車椅子の生活を送っている女性が、旦那様に連れられ参加したことがありました。

ギプスを外し、患部を診ましたが、通常は治るまで2か月から2か月半かかる骨折です。クオンタム22を使い、携帯で施術、その後、クオンタム22で直接施術したのです。

およそ20分後、「もう大丈夫」と言ったら、立って歩けたのです。会場では大拍手がわきました。

さらには、岡山の病院に入っている72



車椅子で研究会に参加したが歩けるようになった女性

歳の男性の奥さんから電話が入ったのです。これまで糖尿病と心筋梗塞こうそくを併発し、たびたび緊急入院しているというのです。

今回も症状が悪化し、今、心臓が止まって、医師2人で心臓マッサージを施しているというのです。

私は、渋谷にいましたので、これはクオインタム22しか方法はないと思い、私の携帯に電話してもらい、心臓にあてるよう、指示したのでした。

ここで奇跡が起こったのです。何と、心臓が蘇生したというのです。

これもまたあり得ないことです。残念ながら、深夜になって亡くなってしまったというのですが。

私としては、生きながらえてほしかったのですが、奥さんは、数時間にせよ、息を吹き返し旦那さんを看とることができたというので、非常に感謝されたのでした。

このようにクオインタム22は、その場にいなくとも遠方から量子波エネルギーを

送信することで、痛みや体調不良を改善することができるといふ、21世紀では起こり得ない医療の可能性を開いたと言えるのです。

骨折と診断された翌日、遠隔ヒーリングで激痛がゼロに！

もう1人、骨折の痛みが改善した症例をご紹介します。この方は、私と20年以上親交のあるジャーナリスト・作家の上部一馬さんからご紹介された、踊るラツキーボーイ想真君そうしんというフリーダンサーです。

想真君は、発達障害でこれまで引きこもりで鬱屈うつくした人生を送っていたようなのですが、一度フリーダンス教室に通ったところ、メキメキ上達し、才能が開花、近年では韓国、シンガポール、イスラエルからも公演依頼があり、東京コレクションの常連でNHKからも取材され、目下、若手のダンサーとして注目されている1人です。



指の骨折で全治1か月と診断されたが……（踊るラッキーボーイ 想真君）

前週にフランスから帰国したばかりで、今年（2018年）7月19日、練習中に右足の薬指を骨折、全治1か月という診断を受けたというのです。

上部さんから電話かかってきた21日夕方、想真君から浜松にいる私の携帯に電話をかけてもらったのです。私はいつものようにクオンタム22に私の携帯を挟んで想真君に自分の薬指に携帯を10分間あててもらったのです。

その結果、激痛だったのが、痛みが緩和し、彼は大喜びでした。22

日の日曜日の朝、痛みが少し戻ったのですが、昼になって痛みが消失、「24日になって時折、痛みが走る程度で触らなければ、ほとんど痛みが消えている」状態だということです。痛みの消失とともに薬指の黒ずみが半分くらいになったといえます。このように骨折の痛みの消失と治癒を早める効果が複数の人から報告されているのです。

「脳出血で閉じた瞼が2、3分後開いた」

櫻井喜美夫さん

櫻井喜美夫さんが脳出血で動けなくなったのは2018年7月10日の午後8時のことだった。



脳梗塞を克服した櫻井喜美夫さん

「重い荷物を運ぼうとしたとき、突然、左の瞼が閉じ、呂律ろれつが回らなくなったのです」と奥様は当時を話す。

奥様は救急者を呼ぼうとしたが、櫻井さんはこれを断り、車に乗って病院に向かった。奥様が運転し、車から降りようとしたら、左手と左足が上がりなくなってしまった。

「櫻井は車椅子に乗って病院に入ったのですが、ICUに入れたのが4時間後の12時でした。そこで点滴を受けながら、2日間集中治療を受けたのです」と奥様。その後、個室に移された。このとき、奥様は、以前からお世話になっていた鍼灸師の佐藤清氏に電話したのだ。

櫻井さんは日頃、「自分の病は自分で治せる」が持論だったので、脳

出血が縮小するイメージを浮かべた。

「左の^{まぶた}瞼が潰れ、手も足も上がらない状態でしたので、佐藤清先生に「遠隔をお願いします」と電話したのです。そこで、先生の指示に従い、携帯を櫻井の右脳の血腫ができている箇所にあてたのです。左の瞼が良くなったら左の手を動かしてくださいと言われ、左手が動くようであれば、左の足も動くはずですと言われたのです。

それから2、3分ほどしたら、櫻井の閉じた瞼がパッと開いたのです。ほどなく左手と左足、半身も動かせるようになったのです」

遠隔治療が効いた瞬間だった。

そして、2週間ほど毎日、脳出血が縮小するイメージを思い浮かべた。このときのイメージを細胞は記憶し、遺伝子DNAをスイッチオン、細胞再生の原動力になると思われるからだ。

その甲斐あって、7月24日退院。そのまま病院からリハビリ総合セン

ターに移った。3、4回外に出てのリハビリも行った。

体調はイメージ通りに日増しに回復、何と8月12日になって退院できた。

「病院からは脳出血では最短の退院ですと言われ、ほとんど普通の生活に戻れたのです。疲労が重なると左足をすこし引きずりますが、ほとんど問題ありません。佐藤清先生の他、皆さんのおかげで社会復帰ができました」と奥様は語ってくれた。

大動脈解離の癒痕が残らず、改善できた

こうした症例は櫻井さんだけでなく、全国からも寄せられています。私が浜松

のホテルで施術しているとき、四国の徳島県で治療院を営む安藤茂さん（仮名、64歳）から携帯に連絡が入ったことがあったのです。

かなり弱々しい、緊迫した様子です。徳島の病院に緊急入院したというのです。医師の話では、CT、MRI、PET検査の結果、大動脈解離でもう1センチ心臓の方にずれていたら、即死亡していたという。症状はかなり重篤な具合で、命が助かっただけでも良かったと医師から言われたというのです。

「しかし、胸が苦しいので何とか助けてください」という電話でした。

そこで、これも前出のクオンタム22と遠隔セラピーしかないなと思い、浜松から徳島まで遠隔ヒーリングを試みたのです。

安藤さんにもう一度私に電話をかけ直すようお願いし、名前と生年月日を確認し、携帯は心臓より少し下の膻中穴だんちゅうけつという経穴に30分ほど置くようお願いしたのです。

すると、携帯を胸にあてた安藤さんの体全体が熱くなり、やがて汗だくになっ

て呼吸が楽にできるようになったというのです。そして、短期間で退院でき、医者が大変驚いたとのことでした。

幅も長さも10センチ以上ある大動脈が剥はがれる解離は、必ず癒痕はんこんが残るのですが、安藤さんの場合は、この癒痕が残ることもなく早期退院できたのですから、まったく不思議なことが起きたことになります。

元氣を取り戻した兄は、老人病院で薬漬け医療にあって88歳で他界した

しかし、この携帯バージョンが完成する前に私は88歳の兄の生涯を急性白血病で終わらせてしまった悔しい思いがあるのです。

それは2016年5月のことです。私は九州博多から富山へ戻ったとき、兄が富山市内の病院に入院したのでした。

私はクオインタム22の前段階を携え、病院へ駆けつけたのです。あまりの変り様

に大変驚き、甥に尋ねたら、急性白血病で大変重篤な状態で、医師のデータでは、「^{せきずい}脊髄から髄液を採取した結果、^{がきゅう}芽球細胞の中で正常な細胞が3%しかなく、長くても1週間の命しかない」というのです。

私は驚き、クオインタム22を中心とした代替療法しかないと思い、胸の^{だんちゅう}腫中と小腸にあって、特殊な酸素を水に溶存させた『菩薩元』を飲料するよう、兄嫁に指示したのです。ところが病院では「電気を使ってはいけない」と言われたので、病院側にわからないよう、隠して腫中と小腸にあってさせたのです。

その結果、1週間で兄は危篤状態を脱し、元気を取り戻したので、病院では医師もスタッフも驚き大騒ぎとなったのです。

ところが、担当医は米国製の新抗ガン剤が効いたと勘違いし、これを再度、兄に打ったのです。兄はぶったおれ、意識不明になったので、クオインタム22を腫中と小腸にずっとあてるよう、二度と抗ガン剤を打たないよう、兄嫁に指示しました。

それから3日経ち、兄は元気を取り戻しいろいろ話せるまで回復できたのです。私は、これで大丈夫と思いい、県外に出張しました。

しかし、この間、病院は「抗ガン剤治療を受けないなら、他の病院に移ってください」と追い出しにかかったというのです。

それで仕方なく、紹介された老人病院に転院したのです。これがまた酷い、最悪な老人病院だったのです。

私が出張から戻り、見舞いに行ったら、兄は元気になっており、これで一安心したのです。ところが、その1週間後、見舞いに行ったら、兄は言葉も喋らず、ぼけっとしているのです。

兄嫁に聞いたたら、認知症のような状態で会話することができない老人ばかりの部屋に入れられ、兄は元気で大きな声で話すので、話ができないよう、薬漬けにされたというのです。

それで1か月は入院せざるを得ない容態となっているうちにガン細胞が再生、

復活し、私が見舞いに行ったときには末期状態でした。

こうしてあつという間に88歳の生涯を終えたのです。私は今でもクオンタム22で自宅療養していれば、死ぬことはなかったのではないかと憤りを感じています。こうした薬漬け医療が日本全国の老人病院で行われているとしたら、空恐ろしいことです。こうしたこともあって、私は遠隔からでも施術できる方法はないかと考え始めたのです。

**“地上より宇宙のエネルギーの方が数10倍強い”(故知花敏彦)が
開発のヒントになった!**

私は、前著でも書きましたが、「人の病気や怪我を10日で治す治療師がいたら、お前は3日で治せるようになり、3日で治せる治療師がいたら、お前は1日で治せるようになりなさい。1日で治せる治療師がいたら、お前は1回で治せるようになりなさい」と父から遺訓を受けて治療師を続けてきました。